

令和4～令和7年度
文部科学省研究開発学校指定

研究報告書

－ 2年次 －

(研究紀要 第68集)

知的障害特別支援学校における
小中学校教科の授業実践

－ 生活科・理科・社会科に関する教科等横断的な学びを通して －

2024年3月

筑波大学附属大塚特別支援学校

目次

巻頭言

第1章

学校研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2章

学部研究

I. 小学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

II. 中学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

III. 高等部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

第3章

実践事例の紹介

理科

国語

算数・数学

図画工作・美術

音楽

保健体育

家庭

外国語

第4章

3学期の実践（各学部代表授業の紹介）

小学部・生活科

中学部・社会科

高等部・社会科

巻末言

研究同人

知的障害特別支援学校における小中学校教科の授業実践 - 生活科・理科・社会科に関する教科等横断的な学びを通して -

本校の研究紀要が出来上がりましたのでお届けします。

1908年（明治41年）以降の東京教育大学附属小学校（第五部）や、その後の附属中学校（特殊学級）で取り組んできた特殊教育の先進的な実践を基に、本校が開校したのは今から60年前の1960年（昭和35年）です。そして、開校以降、本校が最も大事にしてきたものの一つは、知的障害のある子どもに、いつ、何を、どのように教えていくのかの探求です。その具体的な取り組みの流れは、1975年（昭和50年）にそれまでの実践を整理した「経験内容表」等を作成し、近年ではそこから「個別教育計画」、「学習内容表」、大塚モデル「指導計画集」の3つのツールからなるパッケージとして結実しました。そして令和元年度までの3年間は、「みんなでつなぐ「個別教育計画」」という研究テーマを掲げ、「個別教育計画の縦断的研究」と「授業評価に基づいた「個別教育計画」の改善に取り組んできました。令和2年～3年度は、「知的障害児教育が今まで大切にしてきたこととは：個に応じた教育課程の編成」とし知的障害教科のうち国語、算数・数学の単元配列表、単元計画の作成と検証、3観点による評価方法及び評価場面の検討に取り組んできました。

昨年度からは、文部科学省・研究開発学校制度の指定を受け、「知的障害特別支援学校における小中学校教科の授業実践 - 生活科・理科・社会科に関する教科等横断的な学びを通して -」をテーマに4年間の実践研究に取り組んでいます。昨年度は、(1) 小学校・生活科、小中学校・社会科の内容を踏まえた教育実践、(2) 指導と評価の一体化に向けた指導計画・評価計画の実践的検討、に取り組みました。今年度は特に、生活科と社会科の連続性に関する教育実践と教育課程の検討を重点的に行い、その成果を今回の研究紀要に掲載いたしました。本実践研究を進めるにあたり、外部の多くの先生方からの助言をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大を機に、教育DXが推進され、本校においても授業の展開の仕方や教員の様々な分掌業務の進め方も大きく変化しています。そうした中でICTの活用が知的障害のある児童生徒の学びにとって極めて重要であることも強く認識しています。このような変化の時であるからこそ、知的障害のある幼児児童生徒の教育をどのように充実・進化させていけばよいのかという問いに、本校の取り組みをまとめた研究紀要が資料の一つとして活用していただけるのであれば幸いです。

2024年3月

筑波大学附属大塚特別支援学校
学校長 川間 健之介